

北海道自然史研究会 2009 年度総会 資料

2010 年 2 月 27 日

事務局／さっぽろ自然調査館・渡辺修

(1) 会計報告・会費徴収

2007 年度・2008 年度会計について報告する。理事会・大会の開催が不規則だったため、2 カ年分について確認していただきたい。

2007 年度会計報告

収入	支出
前年からの繰越 63,360	
会費 1,000	郵送費 1,520
はがき譲渡 4,500	消耗品費 1,764
	大会経費補填 10,000
	ウェブ管理費 1,000
	翌年への繰越 54,576
合計 68,860	合計 68,860

※郵送費は、メーリングリストに加入していない会員への大会通知に使用した費用。このほか未使用はがきが残っている。
 ※消耗品費は、プリンタのトナー代に概算使用率を乗じて算出している。
 ※ウェブ管理費はメーリングリストの維持・更新作業の費用概算。※はがき譲渡は現物で事務局にあったものを譲渡して現金化したもの。
 ※大会経費補填は、登別大会の開催費用の補填金。

2008 年度会計報告

収入	支出
前年からの繰越 54,576	
	ウェブ管理費 1,000
	翌年への繰越 53,576
合計 54,576	合計 54,576

※ウェブ管理費はメーリングリストの維持・更新作業の費用概算。

上記の通り報告いたします。

事務局 渡辺 修 ㊟

上記の通り相違ありません。

会計監査 大原昌宏 ㊟

山崎真実 ㊟

会費についてはすでに 2004 年度に入会時のみとする形を提案しており、正式に会則に記載したい。本研究会の活動はインターネット上での活動と大会開催が中心となっており、会費徴収の必要性が低くなった。入会金についても徴収しないことを提案したい。

会則修正案
〔下線部〕

第14条 この会の経費は、**会費および寄付金等**をもって当てる。

第15条 この会の会費は、**次の通りとする徴収しない。**

1. 普通会员 1,000円

2. 賛助会員 1口 1万円

(2) 事務局運営

現在電子メールによる案内へ切り替えを進めており、今回大会案内の郵送は 94 名中 13 名となっている (3 名は不達)。今大会での参加申込者 51 名もメールでのやり取りとなっている。次回以降は原則郵送は廃止したいと考えている (郵送会員からの反応が全くないことが大きい)。ただし、大会プログラム集や研究誌などの発送については必要と考えている。

(3) 役員役割明確化

現在役員に関しては特に定まった役割はないが、大会の開催に関しては、開催地と連携して運営を担当する理事を明確化したい。会計・名簿管理・サイト管理・情報伝達などは、引き続き事務局が担当する。その他必要に応じて、役員会で担当理事を決める形としたい。

会則修正案 ※理事の担当については会則には規定しない。

(4) 研究大会について

① 開催方式

大会開催方式については、2004年度に札幌開催と地方開催を交互に行なう方式とすることを確認した。しかし、地方開催では参加者が非常に少なく（2006年度遠軽、2007年度登別）、引き受け先の確保も確実ではないので、札幌開催を基本とし、開催時期も固定したい（今までは開催地にあわせて実施）。ただし、地方開催には巡検・調査の実施や地域での活動の支援などの意義があるため、地方からの希望があれば実施する。

札幌での会場は、札幌市博・北大博物館で会場の引き受けをしていただく。時期は今回のように2～3月を基本に検討したい。

② 次回の大会について

2011年3月8～12日に北大で開催される生態学会本大会に合わせて北海道の自然史に関する自由集会を開き、それと連動する形で大会を開催する案が出ている。

また、以前から石狩での大会開催が検討されており、2010年夏か2011年夏にフィールドでの活動を含めた大会を検討したい。

(5) ウェブサイトの設置

2004年に企画して結局できなかったが、現在も各博物館のウェブ・デジタル化は進んでいないので再提案したい。ポータルサイトもあまり整備されていないため（右表）、ニーズはあると考えられる（自前サイトを持たない施設40/100、参考資料：道内博物館等施設のウェブ一覧参照）。ネット自体の進化が著しいので（ブロードバンド化、検索深化）、ポータルとしての機能を持たせやすい。想定しているコンテンツは以下の通り。

- 博物館系施設のデータベース・紹介・リンク ⇒ ポータル機能が不十分
- 自然史研究者・学芸員のデータベース ⇒ 学芸員・在野研究者・臨職の紹介がない
- 年報・たより・研究報告のデータベース ⇒ デジタル化・ウェブ化が進んでいない
- 行事データベース ⇒ 投稿の集約＋既存サイトの集約・リンク
- 解説・紹介コンテンツ ⇒ 一般向けの解説や質問受付（将来的な発展見込みで）
- 自然情報データベース（北海道の生物情報、将来的な発展として）

主なポータルサイトのリンク施設数（/100）

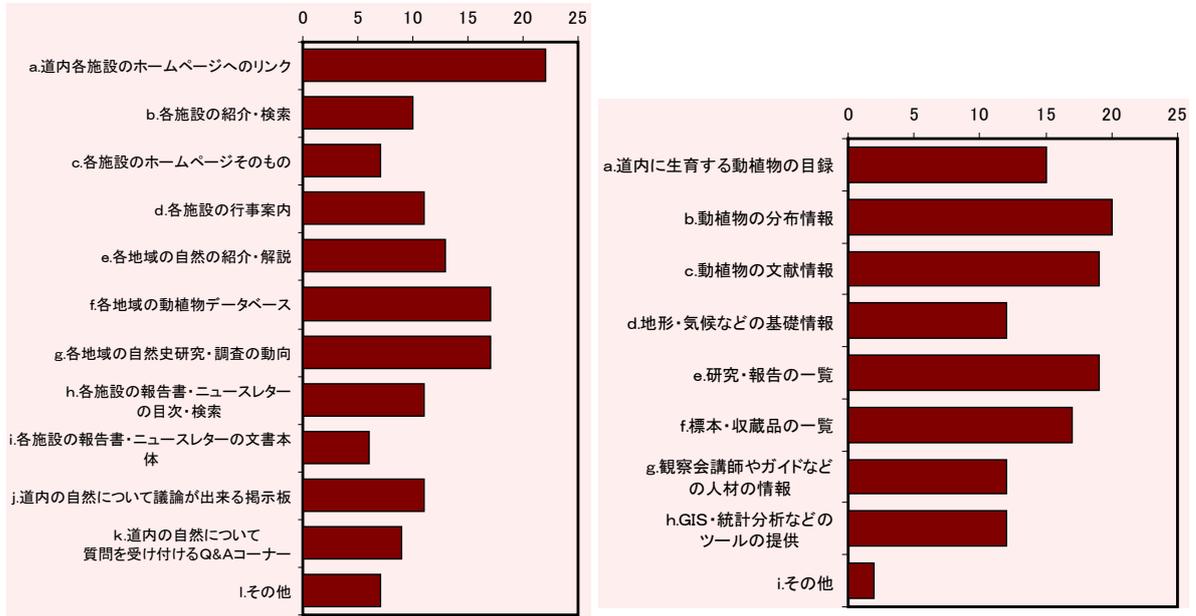
北海道文化資源データベース(道)	68
インターネットミュージアム(丹青)	41
日本の科学館めぐり(JST)	25
Yahoo登録サイト 博物館	22
環境サポートセンター(環境財団)	15
1タウンページ 北海道>博物館・科学館	12
道央ミュージアムネット(連絡協議会)	13
北海道人	12

展示施設・研究報告のウェブ化の現状については整理し

自然史系研究報告のデジタル化	
本文デジタル化	1
本文デジタル化(一部の号)	6
目次のみ	12
ウェブに情報なし	11

てきているので、その紹介とともに情報収集に努める。

課題は労力と資金の確保、会員・各施設の協力だが、資金面は（一回辞退しているもの）助成金の確保が考えられる。研究報告等については現物の収集・集約と管理を誰が担当するかも課題となる。



ポータルサイトに欲しい機能

データベースに欲しい機能・項目

(2004年会員アンケート結果)

(6) 研究報告誌等の発行について

自然史の報告を出す場が減っている（学会誌⇒対象外、博物館⇒予算削減、民間⇒消滅、市民団体⇒編集コスト重荷）ので、場を作るとともに、蓄積していきたい。可能であれば、審査・編集を強化して論文としての水準を保てる形のクラスも用意したい。（方向性としては「モーリー」「ファウナ」のような一般向け・ビジュアル中心ではなく、「北海道の自然と生物」（1996年終刊）「ワイルドライフレポート」（2001年終刊）のような論文誌）

課題は原稿の収集と査読・編集水準の維持。理事など主要メンバーで周知と査読を積極的に担当する必要がある。可能であれば、既存の雑誌（博物館報告、市民団体会報など）を吸収して、編集・印刷・デジタル化を省コスト化をはかることも考えられる。コスト面はDTP、電子出版による大幅コストダウンでクリアしやすい。助成金の利用のほか、調査館として資金&編集作業提供しても良いと考えている。

今回は、今後の一年でニーズの調査や方針の確定等を進めるために編集（準備）委員会を設置することを提案する。

そのほか、ハンディサイズで学習用に広く使える小冊子を刊行していくことを提案したい（各会員の持ちネタを観察会や講座で使える冊子にするイメージ）。ペーパークラフトなども含めて、ミュージアムショップ等の販路を生かす形で製作・販売する。教育現場での利用や自然紹介施設での利用に直結した形での企画も考えやすい。1000～2000部の需要を確保できれば、シリーズとしては成立しうる。編集・デザインは事務局で対応できるので、

ビジュアル面も含めた企画・原稿執筆が出来るテーマがどれだけあるかによる。

これに関しては、調査館配布の資料、文一総合出版のハンドブック事例等も参照のこと。

(7)役員改選、役員の役割明確化

役員については実質的に今まで交代がなく、再任され続けている。しかし、今回保田会長、宇野理事から退任の希望があり、また事務局としては運営面の強化を図るために、札幌圏で運営に携われる役員を選任したいという意向がある。事務局では、以下の役員改選を提案したい。

- ・川辺副会長を会長とし、古沢仁氏を副会長とする。
- ・会員の持田誠氏、志賀健司氏を理事とする。小宮山理事・大原理事・齋藤理事・浦理事・山崎監事を再任する。渡辺事務局長・丹羽事務局次長を再任する。
- ・大原理事の監事職兼務を解いて、新たに内藤華子氏を監事とする。

現在の役員		
役職	氏名	所属等
会長	保田信紀	大雪山自然史研究所
副会長	川辺百樹	ひがし大雪博物館
理事	宇野裕之	北海道環境科学研究センター
理事	浦 巧	石狩南高校
理事・監事	大原昌宏	北海道大学総合博物館
理事	小宮山英重	野生鮭研究所
理事	齋藤和範	旭川大学地域研究所
監事	山崎真実	札幌市博物館活動センター
事務局長	渡辺 修	さっぽろ自然調査館
事務局次長	丹羽真一	さっぽろ自然調査館

<事務局連絡先>

さっぽろ自然調査館 wata-os@cho.co.jp

メーリングリスト natural-h@cho.co.jp

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階

Tel 011-892-5306 Fax 011-892-5318